

目次

- ・ 日本図書館文化史研究会への名称変更について（山本順一）
- ・ 編集委員会より、投稿規定・執筆要領（案）
- ・ 研究例会のお知らせ
- ・ 事務局より

日本図書館文化史研究会への名称変更について

山本 順一

（図書館情報大学）

本会は、創立以来、10年にわたり、“図書館史研究会”と名乗ってきた。それは、わが国において、図書館（情報）学の1分野として、歴史的存在である国内外の図書館を研究対象とする「図書館史」の学術的振興を図ろうとの趣旨に出るものであった。ところが、近年、‘電子図書館’や‘デジタル・ライブラリー’なる新たな図書館概念が提起され、図書館機能が再検討される状況となるにいたり、より広い視野をもって研究する必要性が生じている。「情報史」という新奇な研究分野も登場しようとしている。本会としては、図書館にかかわる史的現象を文化史という観点から広く捉えかえし、その研究成果を過去から未来に投射する効果をもつ射程距離の長いものとするべく、研究対象領域の再編を期し、その名称を“日本図書館文化史研究会”と改めることにした（‘日本’を冠したのは、当該分野における国内の代表的研究団体を目指すということを意図して）。

上記の理由は、9月の法政大学における総会において了承され、正式に名称変更の手続きを完了した。総会に出席できなかった旧“図書館史研究会”会員の理解を求める次第である。

◇編集委員会より

— 新誌名の募集ならびに「投稿規定・執筆要領」の制定について —

図書館史研究会が日本図書館文化史研究会と改まったことに伴い、機関誌『図書館史研究』の刷新をはかることにしました。つきましては新しい機関誌の名前を公募しますので、同封のハガキにお書き添え下さい。

また、次のような「投稿規定・執筆要領」を制定し、第13号（1996年8月発行予定）より、適用する予定です。あわせてご意見等をお寄せ下さい。

応募資格等

- ① 日本図書館文化史研究会会員は投稿することができる。
- ② 応募原稿は未発表のものに限る。ただし口頭で発表し、これを論文にまとめたものは除く。

応募原稿等

- ③ 原稿は完全原稿とする。ワープロ等を使用する場合、B5用紙（縦位置）、1行32字×30行・横書きの書式に設定する。手書きの場合は400字詰（20字×20行）原稿用紙を用いる。
- ④ 枚数制限は特に設けないが、長文の場合2回以上の分載とすることがある。
- ⑤ 図版は占有面積1ページ分を400字詰原稿用紙3枚の割合で換算し、そのまま版下として使用できるよう鮮明なものを提出する。
- ⑥ 原稿はMS-DOS標準テキストによるワープロ原稿が望ましい。
- ⑦ 原稿には標題（英文併記）、著者名（ローマ字併記）、および著者の所属機関名を記入した表紙を付ける。

原稿の提出

- ⑧ 原稿はコピーを含め2部を提出する。なお、投稿原稿は返却しない。
- ⑨ 原稿は書留により別記編集委員会に郵送する。ワープロ原稿の場合、使用機器、ソフト名を明記した5インチ、もしくは3.5インチのフロッピー・ディスクをあわせて提出する。編集委員会に到着の日を原稿受領の年月日とする。

編集委員会

- ⑩ 原稿の採否は編集委員会が決定する。
- ⑪ 編集委員会は原稿の内容・表現等について、著者に修正・書き直しを求めることがある。また、編集委員会で用字・用語等について、修正・統一をすることがある。

校正・抜刷

- ⑫ 著者校正は初校のみとする。
- ⑬ 校正時の加筆・訂正は必要最小限にとどめる。
- ⑭ 著者には抜刷3部を進呈する。

体裁・表記

- ⑮ 原稿の執筆は以下の要領による。
 1. 本文の見出し区分は、原則としてポイントシステムを使用する。
 2. 句読点は「，」「。」を用い、各1字分をとる。その他の記号類も各1字分をとるが、点線（……）・ダッシュ（—）は各2字分をとる。
 3. 数字は引用文、および漢語の一部となっている場合を除きアラビア数字を用い、2桁以上の場合は1マス2字をあてる。
 4. 外国語は慣用的呼称をカタカナで表記し、必要に応じて原綴を（ ）に記す。欧文文字の大文字は、1マス1字、小文字は1マス2字をあてる。
 5. 西暦年以外の紀年を使用するときは、必要に応じて西暦年を（ ）に入れて併記する。
 6. 本文中の引用文献のタイトルは、欧語の場合はその下にアンダーラインを引

- き、それ以外は『 』に入れる。
7. 本文中の論文等のタイトルは、欧文の場合は“ ”に入れ、それ以外は「 」に入れる。
 8. 本文中の引用は、「 」、または“ ”に入れる。長文の場合は行を改め、本文より2字下げて記す。
 9. 注は通し番号を付け、全文の末尾にまとめる。その際文献の記載については「『図書館学会年報』執筆要綱」に準じ、以下のように記載する。
[雑誌論文からの引用]
渡辺重夫「国民の権利としての図書館利用」『図書館学会年報』Vol.30, No.2, June 1984, p.55.
Harris, Michael H. “The dialectic of defeat : antimonies in research in library and information science,” Library trends. Vol.34, No.3, 1986, p.515-531.
[図書からの引用]
永末十四雄『日本公共図書館の形成』日本図書館協会, 1984, 352p.
Newhouse, Joseph P. and Arthur J. Alexander. An Economic Analysis of Public Library Services. Lexington, D.C. Heath Co., 1972, p.120.

原稿の送付先

小黒浩司

<1995-97年度役員体制>

代表 小川徹*
運営委員 石井敬三、宇治郷毅、奥泉和久、小黒浩司*、山口源治郎*、
山本順一*
監事 池田政弘、塩田一徳
事務局長 中林隆明
☆新たに監事2名が承認されました。編集委員は、運営委員が兼任(*印)

◇「ニューズレター」原稿募集

「ニューズレター」の原稿を募集します。研究に関する情報、書評なんでも結構です。原稿は可能な限りワープロで、MS-DOSテキストファイルに変換したものを、事務局あてお送りください。

研究例会のお知らせ

第1回

日時：1995年12月9日（土）午後1時から

場所：法政大学 69年館 2F 921番教室

発表：山口源治郎：『転換期における図書館の課題と歴史』論評

山本順一：図書館文化史私論（いずれも仮題）

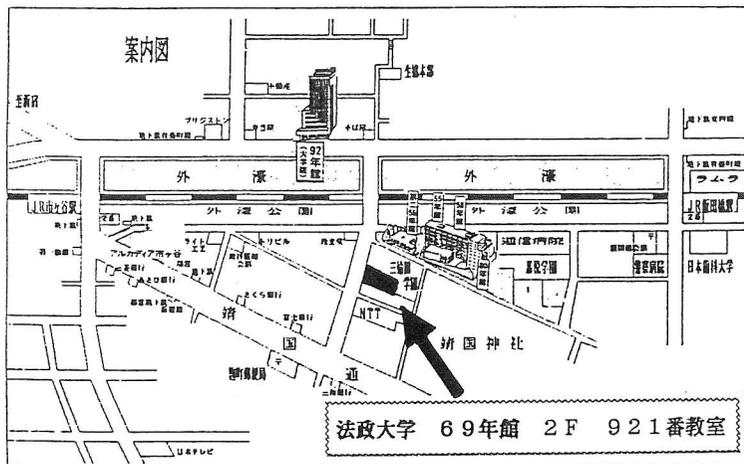
今後の予定

第2回 1996年3月16日（土） 国立国会図書館

◇ 1996年7月 セミナーおよび総会（大阪を予定）

◇ 1996年9月 未定

◇ 1996年12月 未定



◇事務局より

大変遅くなりましたが、振替用紙を同封しますので、会費（年額 3,000円）の納入をお願いいたします。この度、会が新たに発足したことから、会費の徴収は94および95年度分といたします（94年度未納の方には別紙を同封いたします）。

名簿（次号「ニューズレター」に掲載予定）の整理のため、はがきを同封します。また、機関誌の新誌名および会の英文略称についてのご提案（Japan Association of Library and Information History）、そのほかご意見があればご記入ください。

お手数でもお早めにご記入の上、12月15日までにご返送ください。

日本図書館文化史研究会 事務局 中林隆明